

コミュニティクラス・活動の再開に関するガイダンス

COVID-19 は引き続き地域社会にリスクをもたらしているため、すべての市民が予防策を講じ、拡散のリスクを軽減するためにその運営や活動を変更することが必要とされます。本手順書は、コミュニティ センター、シニアセンター、公共公園の屋内及び屋外エリアなどのコミュニティ環境で、青少年及び成人向けのクラスや低リスクの活動を提供する組織に指針を提供しています。このような活動には、地域の音楽教室や演劇教室、運動教室、美術教室、読書クラブなどがあります。また、税金の準備のためのサポート、地域会議のためのスペースの提供、クーリングセンター向けのスペースの提供など、重要な地域サービスも含まれる場合があります。

感染者が体調が良い場合でも、COVID-19 を他者に拡散リスクは、以下の要因の影響を受けます。

- マスクが適切にまたは一貫して鼻と口を覆って着用されておらず、物理的距離が維持されていない場合、リスクが高まります。
- 屋内、特に換気の悪い場所で活動を行うと、リスクが高まります。
- 参加者間の接触の度合いが高まるとリスクが高まります。より濃厚な接触 (特に顔と顔の接触)、及び濃厚接触の頻度と合計期間は、呼吸器飛沫が参加者間で伝播するリスクを高めます。
- リスクは、身体運動レベルが高いほど増加します。身体運動量が増えると、呼吸数が増え、呼吸の度に吸気と呼気の空気量が増えます。
- リスクは、コホートやグループが混在する場合、特にそれらが異なるコミュニティや世帯の人からなる場合に増加します。

スポーツまたは運動指導を提供するコミュニティクラスは、本チェックリストに加えて、ロサンゼルス郡公衆衛生局の[青少年及び成人レクリエーションスポーツリーグの再開手順](#)に準拠する必要があります。

本チェックリストは、プライベートな美術や音楽のクラス、個別指導クラスなど、プライベートな環境で提供または実施されるクラスには適用されないことに注意してください。これらのビジネスは、ロサンゼルス郡 DPH の[限定サービスの再開手順](#)に準拠する必要があります。また、本手順書は高等教育機関が提供するクラスには適用されません。それらは、ロサンゼルス郡 DPH の[高等教育機関向け再開手順](#)に従う必要があります。

- 注意：本文書は追加情報や情報源が利用可能になる度に更新される場合があるため、ロサンゼルス郡のウェブサイト<http://www.ph.lacounty.gov/media/Coronavirus/>に定期的に訪れて本文書や関連方針の更新をチェックしてください。

以下のガイダンスでは、「ワクチン接種完了者」または「ワクチン接種を完了」という用語は、その個人が次の内容を証明するために、ワクチン接種カード、電子カルテ、またはその他の形式の証明書を提示できることを意味します。

- 接種を2回受ける必要のあるワクチン (Pfizer-BioNTechまたはModerna製) の場合、2回目の接種を受けてから2週間以上、または
- ワクチン接種が1回で済むワクチン (Johnson & Johnson (J&J/Janssen)製) の接種を受けてから2週間以上経過している場合

本チェックリストの内容:

- (1) 職場に於ける従業員の健康を保護するための方針と実践
- (2) 物理的距離を確保するための措置
- (3) 感染防止対策
- (4) 従業員及び一般市民とのコミュニケーション
- (5) 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

施設が再開手順に取り組む際、これらの5つの重要点を考慮する必要があります。

本ガイダンスの対象となるコミュニティクラス・活動は、以下に記載されているすべての適用可能な対策を実施し、対策が実施されていない場合は、それがクラスや活動に適用されていない理由を説明する必要があります。

コミュニティクラス名： _____

施設住所： _____

A. 職場に於ける従業員の健康を保護するための方針と実践 (施設に当てはまるものをチェックしてください。)

- 在宅勤務で職務を果たせる従業員には、在宅勤務が指示されている。
- 脆弱な従業員（65歳以上、慢性疾患のある人）には、可能な限り在宅勤務で行うことができる作業が割り当てられており、懸念がある場合は医療従事者、または産業保健サービスに相談して、職場復帰をするのに適切な決断をする。
- 従業員を在宅勤務にする機会を増やすため、可能な限り作業工程は再編成されている。変更された職務オプションを要求した勤務者、ガイド、インターン、及びボランティアスタッフに顧客や他の従業員との接触を最小限にする機会を与えることを検討する（例えば、レジ係として働くのではなく在庫を管理や、テレワークを通じて事務の管理）。
- 物理的距離を最大化するために、代替、時間差、またはシフト制のスケジュールを設定している。
- 全ての従業員（有給のスタッフとボランティアを含め総称して「従業員」と呼ぶ）は、体調がすぐれないまたはCOVID-19の感染者に曝露した場合出勤しないように指示されている。以下の入場時のスクリーニングの流れを参照のこと。従業員は、必要に応じて自己隔離と検疫に関する公衆衛生局の指導に従うことを理解している。病気で自宅にいるときは、従業員が罰せられることがないように、職場休暇ポリシーが見直され、修正されている。
- すべてのスタッフと参加者は、COVID-19に対するワクチン接種を完了していることが強く推奨される。
- LACDPHの[入場時のスクリーニングのガイダンス](#)に従って、従業員、ボランティア、ベンダー、請負業者、及び配達員が職場に入る前に症状の確認を行っている。スクリーニングには咳、息切れ、呼吸困難、発熱や悪寒の有無、及びその個人が現在隔離・検疫命令下にあるかどうかを含める必要がある。これらの確認は遠隔か、従業員の出勤時に対面で行うことが出来る。可能であれば職場での検温も行う。
 - スクリーニングで陰性の場合（クリア）。過去10日間に症状がなく、既知のCOVID-19症例との接触がない場合は、その日の入場及び勤務が許可される。
 - スクリーニングで陽性の場合（クリアしない）
 - その個人がCOVID-19のワクチン接種を完了¹しておらず、過去10日間に既知のCOVID-19症例と接触した場合、または現在検疫命令を受けている場合、その個人は施設に出入りすることはできず、自宅で検疫するために直ちに帰宅させる。
ph.lacounty.gov/covidquarantineに掲載されている検疫の手順を提供する。
 - その個人が上記の症状のいずれかを示しているか、現在隔離命令を受けている場合、その個人は施設への立ち入りや勤務はできず、自宅で隔離を行うために直ちに帰宅させる。
ph.lacounty.gov/covidisolationに掲載されている隔離手順を提供する。
- 一名以上の従業員がCOVID-19検査で陽性判定を受けた場合、雇用主はその陽性者を自宅隔離させ、職場でその陽性者と接触のあったすべての従業員にただちに自己検疫を促す計画または手順を準備している。

¹ 接種を2回受ける必要のあるワクチン（Pfizer-BioNTechまたはModerna製）の場合、2回目の接種を受けてから2週間以上、またはワクチンを接種が1回で済むワクチンの接種を受けてから2週間以上経過している（Johnson&Johnson[J&J]/Janssen製）人が、ワクチン接種完了者とみなされます。

雇用主の計画では、追加のCOVID-19管理措置が必要となる可能性のあるさらなる職場曝露があったかどうかを判断するために、すべての検疫中の従業員のCOVID-19検査へのアクセスや、検査を手配する手順が考慮されている必要がある。

- ❑ コミュニティクラスまたは活動は、発症前14日以内のある時点でその場所にいたCOVID-19が確認されたすべての個人について公衆衛生部に通知することが要求される。発症日は、COVID-19症状が最初に現れた日、またはCOVID-19検査日のいずれか早い方とする。
- ❑ オンラインによる報告は、公衆衛生局に施設に於けるCOVID-19への曝露を通知する上で推奨される方法であり、コンピューターまたはモバイルデバイスから、安全なウェブアプリケーション <http://www.redcap.link/lacdph.educationsector.covidreport> にアクセスすることにより実行できる。オンラインによる報告が不可能な場合は、[教育セクター向けCOVID-19症例及び接触者ラインリスト](#)をダウンロードして記入し、ACDC-Education@ph.lacounty.gov に送信することにより、手動で報告することができる。すべての症例の通知は、症例の通知を受けてから1営業日以内に送信する必要がある。
- ❑ 14日間以内に施設内で3件以上の症例が特定された場合、コミュニティクラスまたは活動の運営者はこの発生を郡の公衆衛生局に上記の方法で報告する。公衆衛生局は、コミュニティプログラムと協力して、クラスターが公衆衛生集団発生調査を必要とする集団発生であるかどうかを判断する。
- ❑ 他者と接触する従業員には、鼻と口を覆うのに適切なフェイスマスクが無料で提供されている。詳細については、LAC DPH COVID-19マスクのウェブページ (<http://publichealth.lacounty.gov/acd/ncorona2019/masks/>) を参照のこと。他者と接触している、またはその可能性がある就業時間中は、従業員は常時鼻と口を覆うマスクを着用する。医療従事者からフェイスマスクを着用しないように指示されている従業員は、状態が許す限り、州の指示に準拠した下端にドレープが付いたフェイスシールドを着用しなければならない。ドレープは顎の下にフィットするものが好ましい。一方向弁付きのマスクは使用してはならない。
- ❑ すべての従業員は、ドアが閉まっている個人オフィスで一人で作業する場合、または飲食する場合を除き、常にフェイスマスクを着用しなければならない。
- ❑ 従業員は、フェイスマスクを毎日洗濯、または該当する場合交換するように指示されている。
- ❑ マスクが常時正しく着用されているようにするために、従業員は、マスクを安全に取り外して他の人から物理的に離れることができる休憩時間を除き、飲食は禁じられている。飲食する場合は、従業員は常に他の人から少なくとも6フィートの距離を取る。可能であれば、屋外で他の人から離れて飲食することが推奨される。キュービクルやワークステーションが従業員間により広い距離や仕切りを提供している場合は、休憩室で食事をするよりも、キュービクルやワークステーションで飲食することが好ましい。
- ❑ 従業員が食事や休憩に使用する部屋やエリアは、以下の対策を実施することにより、占有率が低下され、従業員間のスペースが最大化されている。
 - 休憩に使用される部屋またはエリア内で個人間の距離を少なくとも6フィート確保することができる最大収容人数を掲示する。かつ、
 - 食事や休憩に使用される部屋やエリアの占有率を減らすために、休憩や食事の時間をずらす。かつ、
 - テーブルを少なくとも8フィート離して配置して、座席間に6フィートの距離を確保し、占有率を下げるために座席を取り除くかテープを貼り、距離を確保するために床に目印を付け、対面での接触を最小限に抑えるように座席を配置する。仕切りの使用は、拡散をさらに防ぐために推奨されるが、占有率の削減、物理的距離の確保の代替と見なすべきでない。
- ❑ 従業員は、常に施設のすべての場所で訪問者及び互いに少なくとも6フィートの距離を維持するように指示されている。従業員は、参加者をサポートするため、またはその他の必要に応じて、一時的に近づくことができる。

- トイレ、その他の共有エリアは以下の頻度で1日1回以上消毒されている。スケジュールは以下の通り：
 - トイレ _____
 - その他 _____
- 消毒剤やその他の関連する供給品は、以下の場所に保存されており、従業員に利用可能となっている：

- COVID-19に対して効果的な手指消毒剤は、以下の場所に保存されており、全ての従業員に利用可能となっている：

- 従業員は、こまめな手洗い、手指消毒剤の使用が順守されるように指示されている。
- 各従業員に本手順のコピーを配布している。
- 可能な限り各従業員に各自の用具を割り当てて、電話、タブレット、無線機、その他の備品、またはオフィス機器をできる限り共有しないように指示している。
- アイテムを共有する必要がある場合は、少なくとも1日に1回、または必要に応じてより頻繁に、そのアイテムの表面に適したクリーナーを使用して清掃を行う。これには、コピー機、ファックス機、プリンター、電話、キーボード、ホッチキス、ホッチキス針抜き、レターオープナーなどの共有オフィス機器、レセプションエリアの表面、共有ワークステーション、オーディオ及びビデオ機器、トランシーバーなどが含まれる。
- 従業員が勤務中に清掃作業を実施するための時間を割り当てている。清掃の割り当ては従業員の職務の一環として、勤務時間内としている。必要に応じて営業時間を変更し、ワークスペースを定期的かつ完全に掃除できるようにする。必要に応じて、増加する清掃需要を補うために外部の清掃会社を利用する。
- 本チェックリストに記載されているすべての方針は、雇用条件に関するものを除き、第三者として敷地内にいる可能性がある配達スタッフ及びその他の会社にも適用される。
- オプション - その他の対策の説明

B. 物理的距離を確保するための対策

- 各コミュニティセンターのスペース/部屋について、その特定のスペースにいる人数を、常に少なくとも6フィートの物理的距離を維持するのに適切な人数に制限する(青少年を除く)。
 - 青少年の場合、参加者は同じスペースに留まり、可能な限り小規模で一貫性のあるグループに留まる。各クラスで同じ参加者とスタッフを維持し、同じ家族からの参加者を可能な限り同じグループにする。安定したグループの最大サイズは、グループ内のすべての参加者が利用可能なプログラムスペース内において、他のすべての青少年から3フィートの物理的距離を維持できる青少年の人数によって制限される。スタッフは、青少年の参加者や他のスタッフから6フィートの距離を確保する必要がある。安定したグループの人数は、利用可能なプログラムスペースのサイズに関係なく、青少年30人と監督スタッフ2人以下とする。
 - 成人の場合、屋内で提供されるクラスは、教室または講堂の占有率を50%に制限する。占有率は、建築基準法または消防法の収容人数に基いて計算する。
 - 追加の安全対策として、コミュニティクラスまたは活動の主催者は、屋内クラスへの参加をCOVID-19に対するワクチン接種完了の証明書を提示する参加者とインストラクターのみに制限することを選択できる。その場合、
 - 参加者は、登録時にワクチン接種完了していることを証明する。かつ、
 - COVID-19のワクチン接種を完了している参加者は、教室や活動スペースへの立ち

入りが許可される前に、クラスまたは活動の運営者に写真付き身分証明書とCOVID-19のワクチン接種を完了の証明を提示しなければならない。証明書として認められる書類は以下の通り：ワクチン接種カード（ワクチン接種者の氏名、提供されたワクチンの種類、最後に接種を受けた日付を含む）、または別の書類としてのワクチン接種カードの写真、または携帯電話もしくは電子機器に保存された接種を受けた人のワクチンカードの写真、または医療従事者から提供されるワクチン接種に関するワクチン接種完了の書類（ワクチン接種を受けた人の氏名、及びその人がCOVID-19のワクチン接種を完了していることを確認する内容を含む）。

- 全てのインストラクター、参加者、及び施設に入場する訪問者は、常時マスクを着用する。これはすべての成人と2歳以上の子供に適用される。医師よりマスクを着用しないように指示されている人は、状態が許す場合に限り、州命令に準拠した下端にドレープが付いたフェイスシールドを着用する。ドレープはあごの下にフィットするものが好ましい。一方向弁付きのマスクは使用しない。コミュニティセンターの利用者と地域の安全をサポートするために、マスクを持参していない訪問者が利用できるマスクを用意する。
- 座席、机、またはワークステーションの間のスペースを最大化する。座席間の6フィートの距離、距離を維持するための床のマーキング、対面の接触を最小限に抑えるような座席の配置など、他の方法で参加者間の距離6フィートを確保するための方法を検討する。仕切りの使用は、拡散をさらに防ぐために推奨されるが、占有率を減らし、物理的距離を確保することの代替とは見なされない。
- コミュニティセンター内に大きな部屋がある場合、これらの部屋を小さなエリアに分割できる。部屋を分割する場合は、以下の予防措置を講じなければならない。
 - 仕切りを配置する際、火災、安全性、及び環境に関する規制を考慮する。
 - 部屋の仕切りの高さは、床から天井に届く高さがあり、定期的に清掃できる非多孔質材料でできている必要がある。
 - 部屋の仕切りは、健康的な室温制御と汚染物質の除去を可能にするために、換気と空気の流れを最大化できる方法で配置する。
 - 部屋の仕切りは、滑り、つまずき、転倒のリスクを最小限に抑える方法で床に固定する。
 - 分割された各エリアは物理的距離（すなわち、参加者間の距離6フィート）のための十分なスペースがある。
 - 分割された部屋は、参加者のグループが別の参加者グループの間を通過せずに出入りできるように設計する。部屋に2つのドアがある場合、参加者の各グループには、スペースに出入りするためにのみ使用するドアを指定することが推奨される。
 - 出口へのルート（出口の手段）が利用可能で、出口の標識が分割された部屋の両側の参加者にはっきりと見えるようにする必要がある。各エリアには、エリア内の任意のポイントから安全な場所へ続く障害物のない通路が必要である。出口への経路を示す標識を仕切りの上またはその付近に掲示し、緊急時の安全を確保するために、これらの経路の使用を避難訓練で実践する。
- 小さなグループ向けにアクティビティを再設計し、間隔を取れるよう家具と教室のスペースを再配置することを検討する。
- スタッフは、屋内と屋外の両方の空間で、動作を最小限にし、間隔を最大化するため、子供の発達状態に適した理解しやすい指示を開発する。
- 重要でない訪問者、ボランティア、及び他のグループが同時に関与する活動を制限する。
- 実行可能な場合は共同作業を制限する。これが実用的でない場合は使用をずらし、適切に占有者の間の距離をとり、グループをできるだけ小さく一貫した状態に保ち、使用の合間に消毒する。
- グループ活動や課外活動は、参加者及び活動の責任者が物理的距離を保ち、適切な手指衛生をサポートできる活動に制限する。

- 天候が許す場合の屋外スペースの定期的な使用を含め、必要に応じて代替スペースを使用する。例えば、屋外スペースを最大化する方法や、物理的距離を確保するために使用するカフェテリアやその他のスペースの使用を検討する。
- 可能な限り、集団での移動を最小限に抑制する。複数の部屋から退室して混雑したり、異なる部屋やスペースからの参加者が同時に退出することによる物理的な距離の不足が発生しないようにクラスとスペースの使用時間はずらされている。混雑を最小限に抑えるため、入口と出口に利用するドアをそれぞれ指定することを検討する。
 - 激しい運動や歌などの呼吸飛沫が発生する活動については、個人間の距離を12フィートに増やし、これらを屋外で行う。スポーツまたは運動指導を提供するクラスは、ロサンゼルス郡公衆衛生局の[青少年及び成人レクリエーションスポーツリーグの再開手順](#)に加えて、本チェックリストに準拠している。

C. 感染防止対策

- HVAC システムは正常に機能し、可能な限り最大限に換気を良くしている。効果的な換気は、微細なエアロゾルの拡散を抑制するための最も重要な方法の1つである。ポータブル高効率空気清浄機の設置、建物の空気フィルターを可能な限り最高効率のものへアップグレード、外気量を増やしオフィス、及びその他の場所の換気を増やす為にその他の変更を加える事を検討する。詳細については、カリフォルニア州公衆衛生局の[屋内環境に於ける換気、空気濾過、及び空気質に関する暫定的なガイダンス](#)を参照する。
 - 注意：換気及びその他の屋内空気質の改善は、フェイスカバーの着用、物理的距離、頻繁な手洗い、異なる世帯の人が集う活動の制限を含む必須とされる保護措置に追加されるものであって、それを代替するものではない。（適切な呼吸器保護用品の使用を必要とする特定の高リスク環境を除く）。
- 生徒または訪問者が施設に入る前にスクリーニングを行っている。スクリーニングには咳、息切れ、呼吸困難、発熱や悪寒の有無、及びその個人が現在隔離・検疫命令下にあるかどうかを含める必要がある。（郡の[入場時のスクリーニング](#)に関するガイダンスを参照のこと） これらの確認は直接行うか、オンラインチェックインシステム、またはこれらの症状のある来訪者は施設内に入場してはならないことを通告する[看板](#)を施設の入口に掲示するなどの方法で行う。
 - スクリーニングで陰性の場合（クリア）。過去10日間に症状がなく、既知のCOVID-19症例との接触がない場合は、その日の入場が許可される。
 - スクリーニングで陽性の場合（クリアしない）。
 - その個人が過去 10 日間に既知の COVID-19 症例と接触した場合、または現在検疫命令を受けている場合、その個人は施設に入場することはできず、自宅で検疫するために直ちに帰宅させる。ph.lacounty.gov/covidquarantine に掲載されている検疫の手順を提供する。
 - その個人が上記の症状のいずれかを示しているか、現在隔離命令を受けている場合、その個人は施設への入場はできず、自宅で隔離を行うために直ちに帰宅させる。ph.lacounty.gov/covidisolation に掲載されている隔離手順を提供する。
- 全てのスタッフ、参加者、及び施設に入場する訪問者は、常時マスクを着用する。これはすべての成人と2歳以上の子供に適用される。医師よりマスクを着用しないように指示されている人は、状態が許す場合に限り、州命令に準拠した下端にドレープが付いたフェイスシールドを着用する。ドレープはあごの下にフィットするものが好ましい。一方向弁付きのマスクは使用しない。地域の安全をサポートするために、マスクを持参していない訪問者が利用できるマスクを用意する。
- 全てのスタッフ、生徒、及び家族が、強化された衛生の実践、物理的距離のガイドラインとその重要性、マスクの適切な着用、取り外し及び洗濯または廃棄、スクリーニングの実施、および COVID-19 固有の除外基準を理解していることを確認する。

- ❑ COVID-19への懸念に対応し、DPHとの連絡係としての役割に責任を持つ担当者(例: プログラムディレクターまたは医療提供者など)を定める。すべてのプログラムスタッフ、参加者及び家族は、この担当者及び担当者への連絡方法を把握しておくこと。この担当者は、施設内でのすべてのCOVID-19症例について地元の保健当局に1営業日以内に通知することができるように、曝露の可能性に関する文書化と追跡を取りまとめることができるように訓練を受けなければならない。
- ❑ スタッフと手指消毒剤を安全に使用できる参加者の健康的な衛生行動をサポートするために、石鹸、ティッシュ、非接触型ゴミ箱、及びエチルアルコール濃度60%以上の手指消毒剤などを含む供給を十分確保する。
- ❑ スタッフと参加者が時間帯をずらし定期的に手洗いを実行できる日課を検討する。生徒とスタッフは、石鹸で20秒間手を洗い、石鹸をつけてから念入りにこすり、ペーパータオル(または使い捨ての布タオル)を使用して手を完全に乾かす。
- ❑ 参加者とスタッフは、手洗いができない場合は手指消毒剤を使用する必要がある。消毒剤は完全に乾くまで手でこする必要がある。注: 特に手が汚れている場合は、こまめな手洗いの方が手指消毒剤の使用よりも効果的です。
- ❑ 9歳未満の子供は大人の監督の下で手指消毒剤を使用する必要がある。誤飲の場合は中毒事故管理センター1-800-222-1222に連絡する。エチルアルコール性手指消毒剤が好ましく、監視されていない子供が使用する可能性のある場合に使用する。イソプロピル手指消毒剤は毒性が高く、皮膚から吸収される。
- ❑ トイレでの移動と集いを可能な限り最小限にするため、施設全体で携帯型手洗いステーションを検討する
- ❑ 参加者には再利用可能なボトルに入れた水または市販のペットボトルの水を持参するよう奨励する。水飲み場は、水用ボトルの補充にのみ使用できる。
- ❑ ドアノブ、電灯のスイッチ、シンクハンドル、トイレの表面、テーブルなどの頻繁に触れる物の表面、及び搬送車両の表面は、少なくとも1日1回、または必要に応じてより頻繁に清掃する。
- ❑ 美術用品(レンガ/ピースの構築を含む)、ゲーム(チェス、チェッカーなど)、コンピューター機器などの用具や機器の共有を制限する。共有する場合は使用の合間に洗浄する。参加者に、用具/機器の共有を含む活動に参加する直前と直後に、手を洗うか手指消毒剤を使用するように指示する。
- ❑ 洗浄剤を選択する時は、環境保護庁(EPA)承認リスト「N」のCOVID-19に対して使用が承認されたものを使用し、製品の指示に従う。これらの製品には、喘息のある人にとってより安全な成分が含まれている。
- ❑ ラベルに記載された適切な希釈率と接触時間の指示に従って、新興ウイルス病原体に対して効果的であると記された消毒剤を使用する。化学物質の危険性、製造元の指示、及び安全に使用するためのCal/OSHA要件に関するトレーニングを従業員に提供する。
- ❑ 現場の清掃と消毒を担当する管理スタッフは、製品の指示に沿った手袋、眼の保護具、呼吸器の保護具、及びその他の適切な保護具を備える必要がある。すべての商品は子供の手の届かない場所に保管し、立ち入りが制限されたスペースに保管する。
- ❑ 清掃を行うときは、参加者が到着する前にスペースの換気をする。参加者が不在の場合は、徹底的な清掃を計画する。エアコンを使用する場合は、新鮮な空気を取り込む設定をする。エアフィルターとろ過システムを交換して確認し、最適な空気品質を確保する。
- ❑ 窓を開けることで安全や健康を害する場合、HVACシステムの中央空気濾過を最大化する(少なくともMERV 13のターゲットフィルター定格)など、空気の流れを改善するための代替戦略を検討する。
- ❑ 長期にわたる施設の閉鎖後、すべての給水システムと機能(飲用噴水、装飾用噴水など)が安全に使用できることを確認し、レジオネラ症などの感染のリスクを最小限に抑えるための対策を講じる。

特別な考慮事項

□ 音楽クラス

- 可能であれば、音楽クラスは屋外で開催する。
- 参加者がフェイスマスクを取り外す必要がある活動（木管または金管楽器の演奏など）は、生徒が互いに12フィート以上離れて、屋外で行われる場合にのみグループとして行うことができる。管楽器奏者は、楽器から放出されるエアロゾルを捕捉するデバイスなど、必要に応じて追加の変更を行う。ただし、屋内のスタジオや練習室で一人で練習することはできる。
- 歌唱など、大量の呼吸器飛沫を発生させる活動の場合は、個人間の距離を12フィートに増やし、これらの活動は屋外で行うようにする。
- 楽器、部品、楽譜、またはその他のアイテムの交換（または共有）を制限する。
- 可能であれば、使い捨ての吸収パッドまたは他の用品を使用して、スピットバルブまたはウォーターキーの内容物を回収する。使用後は廃棄または適切に清掃する。
- 金管楽器の開口部には「ベルカバー」を、木管楽器にはハンド開口部を備えた特別に設計されたバッグを使用して、飛沫やエアロゾルの発生を最小限に抑えることを検討する。

□ 演劇クラス

- 可能であれば、演劇クラスは屋外で開催する。
- 演劇クラスの参加者とインストラクターは、常時フェイスマスクを着用し、すべての参加者が常に6フィートの物理的距離を維持するか、参加者が声を上げている場合は8フィートの物理的距離を維持する必要がある（例：演劇ワークショップの参加者）。
- 可能な場合は、小道具、衣装、かつらの共有を制限する。それらを共有する必要がある場合は、より簡単に消毒できる小道具、衣装、その他の素材を選択する。すべての小道具は、セットで最初に使用する前、及び異なる演者による使用の間に消毒する。すべての共有衣類は、使用するたびに洗濯する。すべてのかつらまたは他の共有補綴物は、使用するたびに消毒する必要がある。
- EPAのリストNに記載されているCOVID-19用消毒剤を使用して、更衣室、楽屋、及び制作現場を清掃する。
- 屋内ではなく、バーチャル方式または屋外でリハーサルとパフォーマンスを行うことを検討する。

□ アスレチック/スポーツクラス

- 本チェックリストに加えて、アスレチッククラスまたは活動は、ロサンゼルス郡公衆衛生局の[青少年及び成人レクリエーションスポーツリーグの再開手順](#)にも従う。
- 激しい運動など、呼吸器飛沫が発生する活動では、個人間の距離を8フィートに広げる。
- 参加者とインストラクターは、授業中は常にフェイスマスクを着用する。マスクは水分補給をする際に一時的に取り外すことができる。水分補給休憩中は、参加者は常に6フィートの物理的距離を維持するように注意する。参加者には、フェイスマスクを着用している間は運動を快適なレベルに制限し、呼吸困難を感じ始めた場合は、頻繁に休憩するか、運動を中止するように促す。マスクが濡れたり、顔にくっついたり、呼吸を妨げる場合は、マスクを交換する。

□ コミュニティミーティング

- 屋内で開催されるコミュニティミーティングは、該当する建築基準法または消防法に基づいて、部屋の占有率の50%または50人のいずれか少ない方に収容人数を制限する。屋外で開催する場合、出席者全員の間で物理的な距離を確保できるように、コミュニティミーティングの定員は100人以下に制限する。
- すべてのコミュニティミーティングエリアは、ミーティング中にすべての出席者が少なくとも6フィートの物理的距離を維持できるように再構成する。
- 会議時間は可能な限り制限する。

- コミュニティ ミーティングを主催する組織は、バーチャル方式による参加希望者のために、遠隔参加オプションを引き続き提供する。
- プライベートイベント (会議/レセプション/会議)
 - コミュニティセンターを、プライベートイベントの主催または開催のために使用できる。プライベート イベントの運営者と主催者は、ロサンゼルス郡公衆衛生局の[私的イベントの再開手順](#)に準拠する必要がある。この手順書は、衛生担当官命令の附属BB に添付されています。

D. 一般市民とのコミュニケーション対策

- 機密性を維持しながら、スタッフ、参加者、及び親/保護者が症状を自己報告し、曝露と閉鎖に関する迅速な通知を受け取ることができるコミュニケーションシステムを維持する。
- 本手順書のコピーまたは、該当する場合は、印刷したロサンゼルス郡COVID-19安全コンプライアンス認定書はスポンサー団体（該当する場合は非営利団体、学校、コミュニティ グループ）によって保管されている。COVID-19安全コンプライアンス自己認定プログラムを完了するための詳細については、<http://publichealth.lacounty.gov/eh/covid19cert.htm>を参照する。スポーツチームは、要請に応じて閲覧できるように施設の現場に「青少年スポーツリーグの再開手順書」のコピーを保管する。
- スタッフと参加者に物理的距離の確保とマスクの着用の必要性を促す看板を施設内全体に掲示している。追加のリソースと企業が使用できる標識の例については、[郡のDPH COVID-19 に関するガイダンスウェブページ](#)を参照のこと。
- 利用者にCOVID-19に一致する症状のある場合は自宅待機をするように指示する標識を掲示している。
- 施設のオンライン発信（ウェブサイト、ソーシャルメディアなど）では、物理的距離の確保とマスクの着用、及びその他COVID-19に関する問題/懸念を提供している。

E. 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

- コミュニティにとって重要なサービスの安全な提供が優先されている。
- 移動が制限されている、または公共スペースにいることで病気にかかるリスクが高い地域のメンバーにサービスを保証する対策を講じている。

企業は上記に含まれていない追加の対策は別紙に記載し、本文書に添付してください。

本手順に関するご質問やご意見は、以下の者までご連絡ください。

事業担当者名:

電話番号:

最終更新日:
